

2) 鳥類

①概説

青森県の希少な野生生物に記載された鳥類は2000年に86種（青森県, 2000）、2006年に93種（青森県, 2006）、2010年は100種（青森県, 2010）であった。今回2種加えて102種となった。青森県で記録された野鳥は約350種であるから3割弱が本書掲載種である。

青森県は本州の北端に位置し、日本海・太平洋・陸奥湾と三方を海で囲まれ、山地・湖沼・河川・湿地と変化に富んだ自然環境である。繁殖種として地域に定住する留鳥・夏鳥、季節に応じて渡りをする冬鳥・旅鳥が生息し、まれに本来の生息地や渡りコースから外れた迷鳥が渡来する。種数の多さから本県は鳥類にとって豊かで安定した生態系が残っているものと考えがちであるが、本県が地理的に夏鳥・冬鳥・旅鳥などの移動経路にあたり出現種が多いだけである。鳥類にとって健全な環境が残されているかは個別の種ごとに判断しなければならない。

希少性の高い種では、クマゲラ（本州産クマゲラ研究会, 2004）・イヌワシ（青森県, 2004）・クマタカ（津軽ダム工事事務所, 2008）の繁殖状況は不安定である。オオセッカは、仏沼と周辺は横ばいである（高橋・宮, 2015）が、仏沼周辺と八戸市では休耕田に依存することから注意が必要である。岩木川下流部の生息数も横ばいである（小山私信, 2009）。

留鳥では、カワウ・カンムリカイツブリ・アオサギが増加傾向である。ノスリは平地での繁殖が増加し、水田地帯・農道・バイパス周辺で普通に見かけるようになった。チョウゲンボウは人工建造物で営巣するようになり定着した。ミサゴは明らかに個体数が増えている。オオバンは個体数が増え夏鳥であったのが留鳥となった。

夏鳥では、燕鳥のウミネコは安定しているが周辺岩礁の繁殖地は非常に不安定である。ツバメ・バンなどは減少し、イワツバメは増加している。コノハズクは県内の広範囲に生息していたが激減し、うるさいほど鳴き声の聞こえていた南部町ではまったく聞かれなくなった。クロツグミ、ジュウイチ、サシバが増加傾向である。ゴイサギのコロニーは不安定で引っ越しが頻回に起こっている。水田の中干しが普及したことでドジョウの生息数が減ったことが影響しているかもしれない。チゴハヤブサは寺社林などでカラス対策として伐採が行われ営巣地が消失する傾向にある。

冬鳥では、ミヤマガラス・コクマルガラスは水田・畑作地帯に大群が見られる。ミヤマガラスは大群で行動していたが小さな群れに分散する傾向が見られ始めた。カシラダカの飛来数は減少傾向。コオリガモは見られなくなった。

旅鳥では、シギ・チドリ類が安定的に観察できる海岸・湿地・水田地帯が縮小・消滅し非常に不安定である。

一次産業との軋轢が懸念されるカワウ・カンムリカイツブリ・アオサギなどは増加傾向であるが、本書では種の選定に際し産業との軋轢は考慮しないことを申し合わせている。

今回の改訂に先立ち、県内の野鳥関係者から意見を聴取したが、個人所有の観察データは多いが引用できる文献化が進んでいないことから判断材料に乏しいことを理由に前回掲載種を踏襲した。タンチョウは江戸時代に生息が確実であることを示す文献（遠藤, 1994）があったことから加えた。オジロワシは県内での複数繁殖が確認された（吉岡ら, 2017）ことからランクを変更した。

「学名、分布」は日本鳥類目録・改訂第7版（日本鳥学会, 2012）、「形態的特徴、生態」はフィールドガイド日本の野鳥・増補改訂新版（日本野鳥の会, 2015）に基づいた。

（関下斉）

②本文

ツル目 ツル科

EX

和名 トキ

環境省：野生絶滅

学名 *Nipponia nippon* (Temminck)

[形態的特徴] 全長76.5cm。下に曲がった長い嘴を持ち、足は比較的短い。頭は白色で顔は赤く、後頭の羽毛が少し長くて冠羽となる。体も白いが冠羽・翼・尾などの羽毛は橙紅色を帯び、飛ぶと特に風切りが橙紅色に見える。繁殖期には東部・背・翼の上面が灰黒色となる。嘴は黒くて先端が赤く、足は赤い。

[選定理由] 八戸市史に「延宝七年六月二十九日、長苗代の代官から、水田の苗を踏むので毎年の通り鉄砲監察が欲しいとのこと、四丁の鉄砲を許す」（八戸市史編さん委員会, 1969）との記述があり、江戸時代には毎年トキの駆除が行われていたが現在は見られない。悪食であるため農薬で死んだドジョウや両生類を食べてしまうことがあるので絶えず危険にさらされている。餌となるドジョウや両生類が多く生息する水田地帯は極少ない。

[分布と生態の概要] アジア北東部の温帯で繁殖。かつてはロシア沿海地方・満州・中国東部と日本で繁殖していた。国内では本州と佐渡でかつて繁殖し、現在は佐渡において導入繁殖しているが野生絶滅。北海道・本州・佐渡・隠岐・四国・九州・伊豆諸島・琉球諸島では野生絶滅。放鳥個体は本州北部と中部で確認されている。森林、水田、湿原に生息していた。“ター”または“ゴァー”と鼻声で鳴く。

[特記事項] 特別天然記念物。国内希少野生動植物種。

(関下斉)

ツル目 ツル科

EX

和名 タンチョウ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Grus japonensis* (Müller)

[形態的特徴] 全長140cm。翼開長240cm。大型のツルで、日本産鳥類の中でも最大級。体は白くて頭頂は赤色、目の前から喉・くび・後頸が黒く、目の後ろから後頸は白い。嘴は黄褐色で、足は黒い。若鳥は成鳥に似るが初列雨覆や初列風切の先が黒褐色。

[選定理由] 盛岡藩では江戸時代に毎年管理的に一定数の鶴を生け捕りあるいは撃っていた。多くは真鶴（マナヅル）であるが、七戸町で丹頂（タンチョウ）の捕獲記録があるほか、各地で鶴（タンチョウ）も捕獲されていた（遠藤, 1994）。また、正部家種康（私信）によると櫛引村（八戸市櫛引）にタンチョウの巣があったとの言い伝えがある。明治以降になると秋・春の渡りが絶え、本種は明治期に絶滅したと判断した。2002年5月4・5日仏沼（蛭名, 2007）、2012年4月2日つがる市に於いて記録された（菊地・松原, 2013）が迷鳥と判断した。

[分布と生態の概要] モンゴル・アムール盆地・満州・ウスリランド・北海道東部・クリール島の湿原で繁殖している。国内では北海道東部で繁殖し、冬期は給餌場などに集まる。まれに本州以南に冬鳥として渡来する。“クルル”と響く声で鳴く。

[特記事項] 日露渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

キジ目 キジ科**A**

和名 ウズラ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Coturnix japonica* Temminck et Schlegel

【形態的特徴】 全長20cm。丸い体つきで尾は短い。頭から体の上面は褐色で黒と淡黄色の黄斑と縦斑がある。眉斑は黄白色。胸から脇には赤茶色と黒の縦斑がある。雄夏羽の喉は赤茶色。

【選定理由】 生息地である原野や草原が減少し、ごく稀な出現となった。

【分布と生態の概要】 ロシア東南部・中国東部・日本（本州中部以北）で繁殖する。本州中部以北では夏鳥、本州中部以南では冬鳥であるが、生息数は極めて少ない。県内では、岩木山麓の草原、上北地域の牧野などに見られたが、近年では三沢市仏沼で継続的に記録され（高橋ら, 2017）、岩木山麓にも記録が見られる。

【生存に対する脅威と保存対策】 原野・荒地・草原の維持と保全が必要。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

ミズナギドリ目 ウミツバメ科**A**

和名 コシジロウミツバメ

環境省：該当なし

学名 *Oceanodroma leucorhoa* (Vieillot)

【形態的特徴】 全長20.5cm、翼開長48cm。体は黒褐色で、腰の上部と側部は白い。腰の白色部の中央には細い黒線がある。尾の切れ込みは深い。翼の上面には淡色帯が出る。

【選定理由】 県内では下北半島の島嶼（とうしょ）で繁殖している（阿部, 2010）。ネズミやカモメ類による捕食圧の増加が懸念される。

【分布と生態の概要】 北太平洋沿岸の島々や孤島などで繁殖し、国内では北海道大黒島・岩手県三貫島などが主な繁殖地。その周辺の海上に見られる。他では稀な冬鳥・旅鳥。県内では、東通村弁天島で1995年に繁殖が確認された。

【生存に対する脅威と保存対策】 東通村弁天島は、セメント積み出し港となっていて一般人は立入禁止のため大きな環境変更は無いが、接岸する船から侵入したネズミやカモメ類による捕食圧への対策が必要である。

【特記事項】 日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

ペリカン目 サギ科**A**

和名 サンカノゴイ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Botaurus stellaris stellaris* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長70cm。ずんぐりしていて首は短く見えるが、伸ばすと長い。頭頂は黒く、体はむぎわら色で黒い複雑な斑がある。嘴は黄色味を帯び、足は緑色味がある。

【選定理由】 生息数が少なく、県内では、三沢市仏沼で繁殖の可能性があり冬期の記録もある。県内の他地域では旅鳥としてごく稀に見られる。生息地である湿地環境の減少や消滅により絶滅が危惧される。

【分布と生態の概要】 ロシア・中国南東部・北海道などで繁殖し、冬にはアジア南部に移動する。県内では稀な旅鳥として観察され、三沢市仏沼周辺では通年見られる。

【生存に対する脅威と保存対策】 湿地やヨシ原などの生息地が減少している。また、仏沼地区では周辺休耕地を代用湿地として利用していたが急速な復田が進み生息環境が消失した。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

ペリカン目 サギ科**A**

和名 オオヨシゴイ

環境省：絶滅危惧ⅠA類

学名 *Ixobrychus eurhythmus* (Swinhoe)

[形態的特徴] 全長39cm。雄の頭頂は黒く、背は栗色。雨覆いは黄灰色で、風切りは灰黒色。下面は白っぽく喉から胸の中央に一本の黒線がある。

[選定理由] 生息数が少なくかつて仏沼周辺ではよく見られたが、現在ではごく稀に見られるだけとなった。

[分布と生態の概要] ロシア極東・中国南東部・日本（中部以北）で夏季に繁殖し、冬期は東南アジアに移動する。県内ではかつて岩木川下流部・三沢市仏沼周辺に生息したが現在ではほとんど見られない。

[生存に対する脅威と保存対策] 湿地環境の減少が脅威。

[特記事項] 日露渡り鳥条約・日米渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

ペリカン目 サギ科**A**

和名 ミゾゴイ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Gorsachius goisagi* (Temminck)

[形態的特徴] 全長49cm。ゴイサギより小さく嘴は短い。顔は赤栗色、体の上面は暗栗褐色。雨覆いは栗色で風切羽が黒く、先端は栗色。体の下面はバフ色と栗色の縦縞で、中央に黒い縦斑がある。

[選定理由] 県内には局所的に少数生息する。かつて平川市猿賀神社で少数繁殖していたが現在はいない。

[分布と生態の概要] 夏鳥として主に本州中部以南で繁殖し、南西諸島で越冬するものもいる。県内では平川市で繁殖の記録がある。

[生存に対する脅威と保存対策] 繁殖適地である森林と湿原の組合せが失われつつある。局所的に分布する傾向があることから繁殖地を保全する必要がある。

[特記事項] 日米渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

ツル目 クイナ科**A**

和名 シマクイナ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Coturnicops exquisitus* (Swinhoe)

[形態的特徴] 全長20cm。頭から後頸は灰褐色、背と雨覆いはオリーブ褐色で黒褐色の縦斑がある。黒い過眼線の下に白線がある。嘴は淡黄色で基部に赤い斑がある。足は黄緑色。

[選定理由] 個体数が少なく、繁殖期に生息が確認されたのは三沢市仏沼と周辺地域だけである。

[分布と生態の概要] 繁殖地はロシアのトランスバイカリア東部と中国東北部の局所。県内では下北郡尻屋崎（清棲, 1978b）と東津軽郡外ヶ浜町（成田, 1996）の記録がある。2003年に仏沼で繁殖期に少数生息していることが確認され繁殖の可能性が高いと考えられた（宮ら, 2007）。

[生存に対する脅威と保存対策] 特殊な湿原に生息する。このような湿地は海岸の後背湿地などに見られ、近年頻繁に起こる大雨による冠水や大時化時の砂の流入などで失われつつある。

[特記事項] 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

ツル目 クイナ科**A**

和名 ヒメクイナ

環境省：該当なし

学名 *Porzana pusilla pusilla* (Pallas)

【形態的特徴】 全長19.5cm。頭頂から体の上面、雨覆いと胸側はオリーブ褐色で、黒い縦斑があり、背には白斑がある。顔から胸は青灰褐色で褐色の過眼線があり、腹と脇は白と黒の横斑。

【選定理由】 ごく希な観察記録があるだけで個体数が少ないものと思われる。三沢市仏沼で数年連続して観察されたが現在では見られない。

【分布と生態の概要】 本州中部以北の水田や湿地に夏鳥として飛来する。県内では三沢市仏沼で1981年から数回だけ観察され（蛭名, 2007）、2003年に鳴き声が録音されてから（宮ら, 2005）、毎年少数が確認されたが現在では不明。背丈の低い湿地草原で“ギィ〜ィ”と長く鳴くが姿を見ることは難しい。

【生存に対する脅威と保存対策】 個体数が少なく、生息する背丈の低い湿地環境はごく限定的である。生息する環境と生息可能な湿地の保全が必要である。

【特記事項】 日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

ツル目 クイナ科**A**

和名 ヒクイナ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Porzana fusca erythrothorax* (Temminck et Schlegel)

【形態的特徴】 全長22.5cm。頭から後頸と上腹は赤茶色で、後頸・背・翼は暗緑褐色。脇・下腹・下尾筒は白と黒の横斑。嘴は青黒色で足は赤い。

【選定理由】 以前は水田や湿原でよく鳴き声を聞いたが近年ではごく稀となった。

【分布と生態の概要】 夏鳥として全国の水田や湿地に渡来する。県内では河川・水田・湖沼付近の湿地に見られたが近年は見られない。繁殖期は“キョッ キョッ キョッキョッキョ”と徐々に早くなる特徴のあるリズムで鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 湿地や溜池に隣接する草地などの生息環境が減少。生息地の保全・再生が必要である。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**A**

和名 ヘラシギ

環境省：絶滅危惧 I A類

学名 *Eurynorhynchus pygmeus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長15cm。スプーン型の嘴。夏羽では、頭や体の上面は黒く赤茶色の羽縁を持つ。飛翔時は翼に細い白帯が出る。嘴と足は黒い。

【選定理由】 全国的に渡来数が少なく、県内の出現も稀である。

【分布と生態の概要】 繁殖地はロシアのチュクチ半島からカムチャツカ半島、ロシア北東部の沿岸のツンドラ地帯で、冬期は中国南部からインドシア半島の沿岸部に渡る。日本には、数少ない旅鳥として干潟や入江に渡来し特に春は稀。県内では太平洋側での記録が比較的によく、津軽地方では水を落とした溜池などに見られることがある（小山, 2010）。ごく浅い水辺で嘴を水につけて採餌する。

【生存に対する脅威と保存対策】 干潟や水のある泥地の減少。

【特記事項】 国内希少野生動物種指定種。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

チドリ目 カモメ科**A**

和名 コアジサシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Sterna albifrons sinensis* Pallas

【形態的特徴】 全長25cm。額が白く、頭頂から後頭にかけては黒い。背と翼の上面は淡青灰色で、腰・尾・体の下面は白い。嘴は黄色く先は黒く、足は橙黄色。冬羽では嘴は黒く、足は褐色。

【選定理由】 県内に繁殖地が複数あったが現在はない。飛来数は少なく、繁殖地となる砂浜や礫地の減少とレジャーなどの立ち入りが繁殖へのストレスになっている。

【分布と生態の概要】 温帯・熱帯地域に広く分布し、県内では八戸市や六ヶ所村の砂浜・埋立地にコロニーがあったが現在は失われている。海岸や河口、河川で飛びながら餌を探しダイビングして魚類を採る。

【生存に対する脅威と保存対策】 繁殖地となる砂浜や荒れ地、餌場となる河口環境が減少し定住が困難となっている。繁殖の兆しが観察された段階で人の立ち入りを制限するなどの保護が必要。

【特記事項】 日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日豪・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

チドリ目 ウミスズメ科**A**

和名 ケイマフリ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Cephus carbo* Pallas

【形態的特徴】 全長37cm。夏羽は全身ほとんどが黒く、下面は少し褐色味を帯びる。目の周辺が白く、嘴の付け根の上下に小白斑がある。嘴は黒く、足は赤い。

【選定理由】 県内では下北半島の島嶼だけで繁殖し、生息数は100～150羽ほどと（阿部, 2010）少ない。ネズミやカモメ類の捕食が心配されている。

【分布と生態の概要】 オホーツク・サハリン・千島列島・北海道沿岸で繁殖。県内では東通村尻屋弁天島で繁殖する。海上で魚類を採餌する。

【生存に対する脅威と保存対策】 企業港内の立入禁止区域で繁殖するが、ネズミやカモメ類による捕食被害がみられる。港内に接岸する船からのネズミの侵入が考えられることから対策が必要である。

【特記事項】 日露渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**A**

和名 オジロワシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Haliaeetus albicilla albicilla* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長雄84cm・雌94cm。翼開長199cm～228cm。翼は幅が広くて四角い。尾は短くて少しくさび形。体全体は褐色で、頭部は淡色の個体が多い。尾は白く、嘴と足は黄色い。幼鳥や若鳥の翼下面は下雨覆の縁に淡色線がある。

【選定理由】 個体数が少なく、繁殖場所も限られている。風力発電施設でのバードストライクに遭いやすい種である。

【分布と生態の概要】 北ヨーロッパからロシア東部の広い範囲で繁殖し、冬期には南下する。日本では主に冬鳥であったが、北海道での繁殖が増え（白木, 2013）、青森県でも繁殖が複数確認された（吉岡ら, 2017）。魚を主な餌とし他鳥類・哺乳類なども捕らえる。岩礁地帯や河川・湖沼などで見られ、サケの遡上を追いかけ上流部にも現れる。

【生存に対する脅威と保存対策】 冬鳥としては餌場・休憩になる岩礁地帯・湖沼・崖の樹林などの保全が必要。留鳥として営巣環境の保全とカメラマンなどのストレスがないよう啓蒙活動が必要。

【特記事項】 国の天然記念物・国内希少野生動植物種・日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

タカ目 タカ科**A**

和名 イヌワシ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Aquila chrysaetos japonica* Severtzov

【形態的特徴】 全長雄81cm・雌89cm、翼開長170cm～213cm。尾は長くて丸尾。遠くから見るとほとんど黒く見える。体は黒褐色で、後頸が金褐色、尾羽は少し淡くて先が黒い。若鳥は成鳥よりも黒みが強く、風切羽の基部と尾羽の基部が白くて飛翔中によく目立つ。

【選定理由】 白神山地など繁殖地域が限定的。県内の生息数はごく少数である。

【分布と生態の概要】 亜種イヌワシは日本と朝鮮半島で留鳥として少数生息する。日本では限られた山岳地帯で希に繁殖する。県内では白神山地2か所で営巣（青森県, 2004）、一部は岩木山に飛来する。八甲田山系・下北半島・津軽半島・八戸市でも記録があるが安定的に生息するかは不明である。崖の岩棚や大径木に営巣する。山地の裸地・伐採跡地・森林周辺草地・林道などで採餌する。

【生存に対する脅威と保存対策】 個体数がごく少なく、繁殖や採餌の環境が限られている。繁殖に対する人的なストレス等に敏感であることから、保護対策が必要である。

【特記事項】 国の天然記念物、国内希少野生動植物種指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**A**

和名 クマタカ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Nisaetus nipalensis orientalis* Temminck et Schlegel

【形態的特徴】 全長雄72cm・雌80cm、翼開長140～165cm。大型のタカであるが翼は短いで、翼開長はトビと同じくらい。翼の幅は広くて先は指状に開き、後縁には膨らみがある。後頭の羽毛は少し長くて冠羽状になる。

【選定理由】 個体数が少なく広大な成熟した森林環境を必要とすることから。

【分布と生態の概要】 亜種クマタカは日本固有種で日本全土の森林地帯に留鳥として生息する。県内では平野部を除く森林地帯に見られるが、森林と海岸が隣接する場合は海岸部へも出現する（小山, 2010）。営巣は広葉樹・針葉樹問わず大径木を利用する。狩りは成熟した森林・伐採跡地・林道・農地などで行われる。

【生存に対する脅威と保存対策】 狩りに適した成熟した森林・伐採跡地・林道が減少している。繁殖は人的なストレスに敏感で適地が減少している。県内は風力発電施設が多数存在し、クマタカの行動に適した風の通り道が重なることが多くバードストライクの危険性が高まっている。

【特記事項】 国内希少野生動植物種指定種。 (関下斉)

フクロウ目 フクロウ科**A**

和名 コノハズク

環境省：該当なし

学名 *Otus sunia japonicus* (Temminck et Schlegel)

【形態的特徴】 全長18～21cm。全身は灰褐色で、褐色・黒色・灰色などの複雑な斑がある。目は黄色。翼の下面は灰白色で、風切りには黒色の横斑がある。赤色型は橙褐色を帯びる。

【選定理由】 主に深山の森林に生息し、南部町ではりんご園に多く生息していたが現在では見られない。繁殖地は少なく個体数も少ない。

【分布と生態の概要】 亜種コノハズクは夏鳥として日本国内に渡来し樹洞で繁殖する。冬期は南日本に移動し、台湾に渡ると考えられている。夜に“ブッキョッコ”と鳴くが、白神山地の深山では日中に聞くことがある（小山, 2010）。三戸町城山公園では巣箱に営巣した例がある（向山, 1978）。

【生存に対する脅威と保存対策】 南部町・三戸町ではりんご園で繁殖していたが、ネコによる被害によって生息しなくなったと予想される（向山, 未発表）。同時期に県南地方の広範囲でほとんど見られなくなった。樹洞で繁殖するが、樹洞のある木は危険木として伐採される例が急増しているので配慮が必要である。 (関下斉)

キツキ目 キツキ科**A**

和名 クマゲラ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Dryocopus martius martius* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長45.5cm。体は黒く、嘴は黄白色。雄は頭頂から後頭が赤く、雌は頭頂だけが赤い。

【選定理由】 ごく限られた環境に少数生息する。心無いカメラマンによる撮影ストレスによって営巣放棄された後、本県での記録は絶えている。

【分布と生態の概要】 亜種クマゲラは北海道・南千島・青森県・秋田県で少数繁殖する留鳥。広大なブナ林に生息しアリなど朽木の中の昆虫を採餌する。巣穴の出入り口は縦約15cm、横約10cmの楕円形。“ケーッ ケーッ”とよく通る声で鳴く。朽木に残る食痕は大きく縦長。

【生存に対する脅威と保存対策】 広大なブナ林を必要とし、営巣に適した真っ直ぐな大径木は極めて少ない。カメラマンなどの人的なストレスが繁殖を阻害した例もあることから営巣環境の保全と並行して人的なストレスの排除が必要。このような方法で撮影された写真を第三者が使用することがないように市民と保護意識を共有することが必要。

【特記事項】 国の天然記念物。

(関下斉)

スズメ目 モズ科**A**

和名 チゴモズ

環境省：絶滅危惧ⅠA類

学名 *Lanius tigrinus* Drapiez

【形態的特徴】 全長18.5cm。モズよりも嘴が太い。頭は青灰色、下面は白く、背と尾羽は赤褐色で黒い横斑がある。翼に白斑はない。過眼線は黒く、雌の目の前が白い。

【選定理由】 毎年繁殖していた場所は無くなり、極稀にしか見られなくなった。

【分布と生態の概要】 ロシアウスリー地方から中国東部、日本などで繁殖する夏鳥。冬期はマレー半島や大スンダ列島に渡る。県内では、やや開けた林や灌木、公園の林などで繁殖するが近年ではほとんど見られない。昆虫やカエルなどを捕食する。

【生存に対する脅威と保存対策】 種差海岸では植生保護の目的で崖の低木が伐採され同種とアカモズの営巣環境が消失した。低木やヤブの環境は邪魔者と考えられがちで消失する可能性が高い。一方、カメラマンに人気の種であることから繁殖地が知られることは保護上問題となることから、繁殖情報を秘匿せざるを得ないことが繁殖地消失の危険性を増大させている。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

スズメ目 モズ科**A**

和名 アカモズ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Lanius cristatus superciliosus* Linnaeus

【形態的特徴】 全長20cm。額は白く、頭から尾までが赤褐色。翼は黒褐色。眉斑は白く、過眼線は黒い。下面は白く脇は橙黄色を帯びる。翼に白斑はない。

【選定理由】 近年生息数が減少しまれにしか見られなくなった。

【分布と生態の概要】 亜種アカモズはサハリンと日本で繁殖する夏鳥。四国・九州では旅鳥。冬期は中国南部より南に移動する。明るい林や草原と灌木などの低木が混在する場所に生息する。灌木の茂みに営巣する。津軽地方ではりんご園や人家に営巣した例があり（小山, 2010）、昆虫・カエル・ネズミ・モグラなどを捕食する。

【生存に対する脅威と保存対策】 草原と灌木の組合せや藪は邪魔者と考えられがちで消失する可能性が高い。カメラマンに人気のある種であるため、繁殖情報を秘匿することで伐採などの危険性が高まっている。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

和名 オオセッカ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Locustella pryeri pryeri* (Seebohm)

【形態的特徴】 全長13cm。尾が比較的に長い。体の上面は褐色で背には黒色縦斑があり、眉斑は淡褐色。下面は灰白色で脇はオリーブ褐色。

【選定理由】 三沢市仏沼地区、小川原湖沼群、岩木川河口、八戸市などの特殊な湿地環境に生息する。

【分布と生態の概要】 亜種オオセッカは日本固有種で、主に利根川・岩木川・仏沼で繁殖する。冬期は関東以南に移動するが詳しいことはわかっていない。ヨシ原に生息するイメージが強いが地面が見えないほど下草が繁茂する湿地を営巣地として選ぶ。太平洋側の休耕田は代用湿地としてオオセッカに適した植生となることがある。

【生存に対する脅威と保存対策】 岩木川と仏沼地区の生息数は安定的であるが、仏沼周辺の休耕田が復田され繁殖地が大規模に消失した。八戸の生息地は全て休耕田であることから継続することは難しい。

【特記事項】 国内希少野生動物種指定種。

(関下齊)

カモ目 カモ科**B**

和名 シノリガモ

環境省：該当なし

学名 *Histrionicus histrionicus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長43cm。雄は全体に紫黒色で頭頂と脇腹の赤栗色や顔・背・胸の白線・白斑が目立つ。雌は全体に灰黒褐色で顔の白斑が目立つ。嘴と足は青黒色。

【選定理由】 県内の限られた溪流で少数繁殖する。

【分布と生態の概要】 シベリア東部から北アメリカ北西部にかけて繁殖し、冬鳥として日本やカリフォルニアなどの岩礁地帯に生息する。国内では北海道や青森県で繁殖し、北日本でもまれに繁殖する。冬には本州中部地方以北の海岸に生息する。本県では白神山地・下北半島・八甲田山系などの溪流の石の隙間を利用して繁殖している。本県で繁殖したものは冬には海に出るが渡来のものと区別できない。国内の繁殖初認は1976年に白神山地赤石川である（三上, 1978）。

【生存に対する脅威と保存対策】 溪流の岩の隙間を利用することから、溪流内部や周辺地の岩も保全すべきである。海岸で越冬するものは釣り糸に絡まったものが多く見られることから、釣りのマナー向上が必要である。

【特記事項】 日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

ペリカン目 サギ科**B**

和名 ヨシゴイ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Ixobrychus sinensis sinensis* (Gmelin)

【形態的特徴】 全長36.5cm。日本のサギ科では最小。雄は頭頂が黒く、体は黄褐色。飛ぶと風切りが黒く、雨覆いは黄褐色。雌は頭が赤褐色で、下面に不明瞭な褐色縦斑がある。

【選定理由】 ヨシ原を伴う水辺の減少など生息環境が減少している。

【分布と生態の概要】 インド・スリランカ・東南アジア・中国・日本で繁殖。国内では北海道から九州に夏鳥として生息。冬期は九州以南の島々・沖縄・台湾などへ南下する。県内では夏鳥として湿地・河川・湖沼・水田・溜池などのヨシ原に生息・繁殖している。

【生存に対する脅威と保存対策】 生息・繁殖するためのヨシ原などの減少によって生息数が減少している。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日米渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

ペリカン目 サギ科**B**

和名 クロサギ

環境省：該当なし

学名 *Egretta sacra sacra* (Gmelin)

【形態的特徴】 全長62.5cm。足が比較的短い。黒色型と白色型とがある。色には変化が多く、黒色と白色が交じる中間型もある。嘴は黒褐色または黄褐色。足は黄緑色または緑褐色で足指は黄色みが強く、飛ぶと足指の裏が黄色く目立つ。

【選定理由】 県内各地の海岸で見られるが生息数が少なくまれにしか見られない。

【分布と生態の概要】 韓国・台湾・東南アジア・オーストラリアに生息。国内では北海道から九州の海岸に生息。県内では夏鳥・留鳥・漂鳥として、海岸の岩礁地帯に黒色型が生息する。冬期には出現頻度が少ないことから温暖な地域に南下するものと考えられる（小山, 2010）。

【生存に対する脅威と保存対策】 釣りなどのレジャーによるストレスや岩礁地帯の減少。

【特記事項】 日米渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

ツル目 クイナ科**B**

和名 クイナ

環境省：該当なし

学名 *Rallus aquaticus indicus* Linnaeus

【形態的特徴】 全長29cm。体の上面はオリーブ褐色で縦斑がある。首から胸は青灰褐色。嘴は比較的長く繁殖期にはほとんど赤く、秋冬には黒褐色で下嘴の基部は赤い。

【選定理由】 湿地や水田地帯の構造変化に伴い生息地が減っている。生息する湿地・水田は局所的である。

【分布と生態の概要】 中国南東部・朝鮮・日本で繁殖。冬期は東南アジアに渡る。日本では夏鳥として全国に広く分布・繁殖しているが個体数は少ない。本州南部では少数が越冬する。沼沢や湖沼のヨシ原・水田・湿地・河畔の草地などに生息する。県内では河川・水田・湖沼付近の湿地で少数生息し局所的に分布している。繁殖期には“ヴィー ヴィー”のほか何種類かの特徴ある鳴き声が聞かれる。真夏の湿度の高い昼下がりに畦で羽繕いする。稲の背丈が腰丈に迫る頃になると雛が畦など見通しのよい場所に現れる。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

ヨタカ目 ヨタカ科**B**

和名 ヨタカ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Caprimulgus indicus jotaka* Latham

【形態的特徴】 全長29cm。灰褐色・褐色・黒・白の複雑な模様。肩羽の灰白色が少し目立つ。雄は目の下・喉・翼の先・尾外側の先端近くに白斑がある。雌は尾外側先端近くの白斑はなく、翼や喉の白斑は不明瞭。

【選定理由】 夏鳥として各地に生息するが出現個体数はごく少ない。

【分布と生態の概要】 バイカル湖からアムール流域、ウスリー川地方から中国南部まで、朝鮮半島・日本で繁殖。冬期はインドネシア・マレーシアなどに渡る。日本では夏鳥として全国で繁殖する。林縁・伐採跡地・原野などに生息し、夕暮れ時・夜明けに“キョキョキョキョキョキョ”という長く連続した大きな声で鳴く。薄暗くなると飛び回りながら昆虫をとる。街灯に集まる昆虫を狙うことから街灯の上や電信柱の上に休む姿を見ることがある。

【生存に対する脅威と保存対策】 原野や明るい林縁などの減少が脅威。 (関下斉)

チドリ目 チドリ科**B**

和名 ケリ

環境省：情報不足

学名 *Vanellus cinereus* (Blyth)

【形態的特徴】 全長31.5cm。額から後頭は黒くて長い冠羽がある。後頸から体の上面は黒く緑色や淡紅色の光沢がある。腰は白くて尾は黒い。胸に黒い帯がある。下尾筒はオレンジ色。

【選定理由】 湿地の減少や水田地帯の構造の変化にともない生息数が減少した。

【分布と生態の概要】 中国東北部と日本で繁殖。日本では本州北部など限られた地域で繁殖し本県が北限。日本中部以南では冬鳥・旅鳥である。つがる市の池沼湿地、岩木川下流域の湿地や水田などで少数繁殖している。太平洋側では十和田市・八戸市で不定期に繁殖しているようである。外敵が近づくと“ケリケリケリケリ”と飛びながら激しく鳴いて攻撃する。

【特記事項】 日露渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

チドリ目 チドリ科**B**

和名 イカルチドリ

環境省：該当なし

学名 *Charadrius placidus* Gray et Gray

[形態的特徴] 全長20.5cm。コチドリに似るがコチドリよりも大きく、嘴は長い。顔の斑紋・目の外縁・胸の帯・足の色はコチドリよりも淡い。

[選定理由] 河川敷・湖畔岸の礫の浜で繁殖していたが、河川・湖岸などの構造変化によって生息地が激減した。

[分布と生態の概要] 日本全国で繁殖している。北海道では夏鳥で冬期は南日本で越冬する。県内でも主に夏鳥だが一部留鳥である。川原の砂礫地・湖沼畔・ダム湖の砂泥地などに生息する。河川では中流以上の砂礫地で繁殖するものが多い。繁殖期はなわばり主張や求愛のため“ピオピオピッピッピッ”と鳴きながら飛び回るので、存在確認しやすい。繁殖時に外敵が接近すると、擬傷といわれる行動をする。親鳥は鳴きながら翼を引きずり怪我した仕草で外敵の注意を引きつけて遠くへ誘導する。

(関下斉)

チドリ目 セイタカシギ科**B**

和名 セイタカシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Himantopus himantopus himantopus* (Linnaeus)

[形態的特徴] 全長37cm。嘴はまっすぐで長く細い。足は非常に長い。頭部と後頸が白い個体から黒い個体まで個体差が大きい。体上面は雄の夏羽は緑光沢のある黒、雌は褐色味がある。嘴は黒く、足は淡紅色。

[選定理由] 春秋の旅鳥として飛来するが、出現は少ない。

[分布と生態の概要] ユーラシアの南部・中国北東部・日本の一部で繁殖し、冬は南部アジア・南半球に移動する。日本では主に旅鳥として春秋に水田・湿地・干拓地などに渡来するが多くない。本州で局所的に繁殖し、越冬するものもいる。県内では旅鳥として湿地・干潟・休耕田・河口などに少数が出現する。嘴を水につけ首を左右に振りながら採餌する。

[生存に対する脅威と保存対策] 湿地・干潟・水張り休耕田など生息地の減少。

[特記事項] 日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 ヤマシギ

環境省：該当なし

学名 *Scolopax rusticola* Linnaeus

[形態的特徴] 全長34cm。額が灰色で、頭頂から後頭に黒い横斑があり、体の上面や雨覆は赤褐色・黒・灰白色の複雑な斑紋で、背と肩羽の外側は灰白色の縦線となって見える。尾は黒く先は灰色。

[選定理由] 主に夏鳥として生息するが数が少なく、出現が希である。

[分布と生態の概要] ヨーロッパ・アジア大陸の温帯地域、サハリン、日本で繁殖。冬期は地中海沿岸、北アフリカ、インド、中国南部、東南アジア、日本南部に渡る。国内では、伊豆諸島や本州中部以北の林で繁殖。北日本のものは冬期に暖かい地方へと移動するとされるが、一部越冬し林内の小さな流れなどで積雪期にも見られる。夜行性であることからあまり人目につかない。春の渡り移動時に公園や人家の庭に出現することがある。林地の湿地・林道などでミミズや昆虫、陸生貝などを食べている。

[特記事項] 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 アオシギ

環境省：該当なし

学名 *Gallinago solitaria japonica* Hodgson

【形態的特徴】 全長30cm。全体の斑紋は他のタシギ類よりも細かく密で、暗色に見える。頭部や体上面の縦斑は白い。背や翼は青灰色を帯び、下雨覆は斑紋がある。尾羽は16～28枚で20枚のものが多い。

【選定理由】 冬鳥として、山地の溪流などに生息するが出現がまれである。

【分布と生態の概要】 アジア大陸の中東部で繁殖し、冬には南アジア・日本に渡る。国内では、冬鳥として溪流畔や湿地に渡来するが多くない。下北半島・七戸町・弘前市などで出現記録がある。水中や泥の中に嘴をさし込んで、ミミズ・昆虫・陸上貝類などを採餌する。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 オオジシギ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Gallinago hardwickii* (Gray)

【形態的特徴】 全長31cm。他のタシギ類よりも大きく淡色である。嘴は大きく細長い。次列風切先端の白線は目立たず、下雨覆には一面に黒斑がある。尾羽は14～19枚で、16枚と18枚が多い。

【選定理由】 生息地の環境変化によって、出現数が減少している。

【分布と生態の概要】 ウスリー川南東部、サハリン南部、日本で繁殖。冬期はニューギニア、オーストラリア、タスマニアに渡る。国内では夏鳥として主に本州中部の高原、東北地方の草原に渡来し枯れ枝や電柱によく止まる。県内では夏鳥として牧草地・湿地・水田・原野に渡来する。飛び立つときに“ゲッ”と鳴く。繁殖期には“ズビャークズビャーク”と鳴きながら飛び回り、ザザザザザという大きな音を立てながら急降下するディスプレイフライトを繰り返す。ザザザザという大きな音は尾羽を打ち鳴らしたものの。

【生存に対する脅威と保存対策】 原野や牧草地の減少や水田地帯の構造変換によって生息地が減少している。

【特記事項】 日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 ダイシャクシギ

環境省：該当なし

学名 *Numenius arquata orientalis* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長60cm。長くて下に曲がった嘴を持つ大型のシギ。頭から背は淡褐色で黒い横斑がある。下背・腰・上尾筒は白くて、尾は白地に黒い横斑がある。眉斑は白く、顔からクビと胸は淡褐色の地に縦斑がある。嘴は黒く下嘴の付け根は淡い紅色。足は青灰色。

【選定理由】 旅鳥として春・秋に渡来するがごく少ない。

【分布と生態の概要】 ロシア南東部・中国北東部で繁殖し、冬には南アジア・アフリカに渡る。国内では旅鳥・冬鳥として干潟に渡来し海岸近くの水田や干拓地の水たまりにも現れる。県内では旅鳥である。長い嘴で巧みにカニを捕らえ、カニの足をふるい落とししてから飲み込む。群れで飛ぶときには編隊を組む。“カーリュー”や“ホーイ ホーイ”と鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 ホウロクシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Numenius madagascariensis* (Linnaeus)

[形態的特徴] 全長61.5cm。長くて下に曲がった嘴を持つ大型のシギ。ダイシャクシギよりも全体的に褐色味が強い。下背・腰・上尾筒は褐色地に黒色の斑がある。翼の下面には一様に黒色横斑があり黒っぽい。嘴は黒く下嘴の付け根は淡い紅色。足は青灰色。

[選定理由] 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。

[分布と生態の概要] ロシア東部・カムチャツカ・オホーツク沿岸・中国東北部・ウスリー地方で繁殖する。冬期には南アジア・ニューギニア・オーストラリアへ渡る。国内では旅鳥して干潟に渡来し海岸近くの水田や干拓地の水たまりにも現れる。県内では旅鳥である。ダイシャクシギと混群を作る。習性はダイシャクシギと似る。“コーリユー”や“ホーイ ホーイ”、“ホイピピピピピ”と鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。
(関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 アカアシシギ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Tringa totanus ussuriensis* (Linnaeus)

[形態的特徴] 全長27.5cm。夏羽の頭は灰褐色で黒い縦斑がある。身体の上は灰褐色で黒い軸斑と横斑、黄白色の羽縁がある。下背と腰は白く、尾は白地に黒の横斑。顔・くび・胸は白地に黒の縦斑が密にある。嘴は先が黒く基部が赤く、足は赤い。

[選定理由] 旅鳥として渡来するがごく少ない。

[分布と生態の概要] アジア中央部からロシア東部・サハリン・北海道の湿原で繁殖し、冬期はアジア南部・東南アジアへ渡る。県内では干潟・入江・水田・港湾などに渡来する。“ピーチョイチョイ”や“ピークウ ピークウ”と鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。

[特記事項] 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。
(関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 サルハマシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris ferruginea* (Pontoppidan)

[形態的特徴] 全長21.5cm。夏羽では頭は暗紅褐色で黒い縦斑があり、体の上面は暗紅褐色で、羽毛の軸斑は黒く、先に白斑がある。腰は白い。顔・くび・胸・腹は暗褐色で、下尾筒は白い。嘴は黒く長めで下に曲がり、足は黒い。冬羽は頭や体の上面は灰褐色で不明瞭な軸版がある。

[選定理由] 旅鳥として渡来するがごく少ない。

[分布と生態の概要] シベリア極北部・グリーンランドのツンドラ地帯で繁殖し、冬には南半球へ渡る。県内では旅鳥として春秋に海岸や河口干潟に渡来するが数はごく少ない。餌は貝・ゴカイ・昆虫・ミミズなどである。採食時、嘴は地面に対し斜めにする事が多い。

[生存に対する脅威と保存対策] 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。
(関下斉)

チドリ目 シギ科**B**

和名 キリアイ

環境省：該当なし

学名 *Limicola falcinellus sibirica* (Pontoppidan)

【形態的特徴】 全長17cm。小型のシギで、嘴は黒く、比較的長く、先がわずかに下に曲がっている。夏羽は頭が黒褐色で、白い頭側線と眉斑があるため、頭側が縞模様に見える。腹は白く、足は黒い。

【選定理由】 旅鳥として渡来するがごく少ない。

【分布と生態の概要】 ロシアの極北部で繁殖し、冬期は南アジア・オーストラリアまで渡る。国内では、おもに秋に渡ってくる旅鳥で、干潟・河口などに出現する。県内では秋に干潟・河口・砂浜・休耕田などに渡来する。ハマシギ・トウネンなどの小型のシギに混じることが多い。昆虫・甲殻類・ゴカイなどを食べる。

【生存に対する脅威と保存対策】 湿地帯・干潟の減少や海岸線・水田地帯の構造変化に伴い生息地が減少している。 (関下斉)

チドリ目 ツバメチドリ科**B**

和名 ツバメチドリ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Glareola maldivarum* Forster

【形態的特徴】 全長24.5cm。ツバメを大きくしたような形。夏羽は頭から体の上面は暗灰褐色で、上尾筒は白く、尾は黒い。翼の下面は下雨覆が赤栗色で、腹と下尾筒は白い。

【選定理由】 旅鳥として希に見られる。仏沼地区での繁殖の可能性がある。

【分布と生態の概要】 モンゴル・中国東部・タイ・チベット・インド北部などで繁殖。日本南部でも局地的に少数が繁殖する。冬期は中国南部・マレー半島・ジャワ・ボルネオ・オーストラリアに渡る。国内では主に旅鳥として全国に少数が渡来し、畑・埋立地・川原・海岸など開けた場所に生息する。茨城・静岡・愛知・島根・福岡・宮崎などで局地的な繁殖記録がある。県内ではまれな旅鳥として太平洋岸の湖沼畔や海岸などで観察されていたが、近年では仏沼周辺に越夏する群れが確認されている。

【特記事項】 日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 ミサゴ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長雄58cm・雌60cm。翼開長147～169cm。翼は細長くて尾は短い。頭部は白くて過眼線は黒い。体の上面は黒褐色、下面は白くて峰に黒褐色の帯がある。

【選定理由】 繁殖地が限られ、個体数が少ない。

【分布と生態の概要】 亜種ミサゴはフィリピン・オーストラリア・北アメリカ・西インド諸島に広く分布し、冬期は温かい地方に移動する。国内でも北日本のものは冬期に南下する。県内では留鳥・漂鳥である。海食崖で繁殖するが森林地帯の大径木や人工構造物での繁殖も散見されるようになった。海・河口・湖沼・河川で魚を採餌する。小川原湖湖沼群では湖沼が結氷し、開放水面に大型の猛禽類が集まる。魚を運ぶ際に大型の海ワシ類に狙われることが多い。

【生存に対する脅威と保存対策】 海食崖の繁殖地は釣りや観光のストレスを受けている。人工建造物での繁殖はカラスの営巣と間違われて撤去される事例が発生しており、管理事業者などとの情報共有が必要である。

【特記事項】 日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 オオワシ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Haliaeetus pelagicus* (Pallas)

【**形態的特徴**】 全長雄88cm・雌102cm。翼開長220～245cm。嘴は大きく鮮やかな黄色、尾は白色でくさび形。翼は飛翔時に後縁がふくらむ。全体に黒色で、翼の前縁と尾の白色が目立つ。

【**選定理由**】 渡来数が少なく、出現がまれ。

【**分布と生態の概要**】 オホーツク海沿岸・サハリン北部で繁殖し、日本・韓国で越冬する。国内では主に北日本に渡来し、本県では海食崖・小川原湖湖沼群・十三湖などに生息し、主に魚を餌とし、ハクチョウ・カモ類も捕らえる。

【**生存に対する脅威と保存対策**】 餌場となる湖沼や罫となる崖地の林の保全が必要である。

【**特記事項**】 国の天然記念物・国内希少野生動植物種・日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 チュウヒ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Circus spilonotus spilonotus* Kaup

【**形態的特徴**】 全長雄48cm・雌58cm。翼開長133～137cm。雄雌共に色彩には変異が大きい。雄成鳥は頭部が灰色で灰褐色の縦斑がある。年令によって目の色が変化し、成鳥では黄色をしたものが多いが、幼鳥では暗色をしている。

【**選定理由**】 県内で繁殖するが数はごく少ない。冬鳥として渡来するものもいるが少ない。

【**分布と生態の概要**】 ロシアのアムール川流域、サハリンで繁殖、冬期は日本・韓国・東南アジアへ渡る。日本では北海道と本州の一部で少数が繁殖しているが、大部分は冬鳥として各地のヨシ原などに出現する。県内では日本海側では屏風山地域や岩木川下流部のヨシ原、太平洋側では小川原湖を中心とする湖沼群・湿地のヨシ原で少数が繁殖している。一般にススキやヨシの株間に営巣するが、北海道ではササ原にも営巣する（樋口ら、1999）。湖沼・河川・ヨシ原・耕地の低空を翼をV字形にして飛び、ネズミ・小鳥・カエル・昆虫などを食べる。天敵にイタチがある（西出、1979）。

【**生存に対する脅威と保存対策**】 繁殖地となる広大な草原・湿地の消失・縮小。

【**特記事項**】 国内希少野生動植物種・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 ハイイロチュウヒ

環境省：該当なし

学名 *Circus cyaneus cyaneus* (Linnaeus)

【**形態的特徴**】 全長雄45cm・雌51cm。翼開長90～124cm。翼と尾、足が長めの中型のタカ。雄は頭部と体の尾が明るい灰色で、胸と腹は白く、上尾筒も白い。飛翔中、翼の先の黒色が目立つ。雌は頭部や体は淡褐色の地に黒褐色の縦斑がある。尾の先の白い部分は狭い。

【**選定理由**】 冬鳥として渡来するがごく少ない。

【**分布と生態の概要**】 ユーラシア大陸北部、北アメリカ北部で繁殖、冬期はイラン・インド・中国・韓国・日本・東南アジアに渡る。国内では冬鳥として全国に出現。県内では秋から春に少数が広いヨシ湿原・河川敷・水田などに出現する。太平洋側では小川原湖や周辺湖沼付近のヨシ原・原野、日本海側では岩木川下流のヨシ原や水田で見られる。ヨシ原や水田の低空を翼をV字形にして飛び、ネズミや小鳥などを捕食する。

【**特記事項**】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 ツミ

環境省：該当なし

学名 *Accipiter gularis gularis* (Temminck et Schlegel)

[形態的特徴] 全長雄27cm・雌30cm。翼開長52～63cm。雄の上面は暗青灰色、下面は白くて胸側から脇は黄赤褐色で、目は暗紅色。雌の上面は暗石版色で下面の横斑は太くて粗い。幼鳥の喉には中央に1本の黒線があるものが多い。目の外縁が黄色。

[選定理由] 県内で繁殖するが少ない。

[分布と生態の概要] 亜種ツミはサハリンと日本で繁殖し、冬期は中国南部や東南アジアに渡る。本県では主に低山帯から平地の林地に生息しているが少ない。小禽類・ネズミ・コウモリ・昆虫を餌にする。林内で行動することが多いことから人目にふれる機会が少ないが、果樹園・水田・畑地などでも狩りをすることから農地などの防鳥網の犠牲になる個体もある。春、秋の渡りの時期には他のタカ類に混じり、上空を巡回移動することがある。“ピョーピョピョピョ”と鳴く。

(関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 ハイタカ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Accipiter nisus nisosimilis* (Linnaeus)

[形態的特徴] 全長雄32cm・雌39cm。翼開長61～79cm。雄はハト大。雄の上面は暗青灰色で、尾には黒帯がある。白い眉斑は小さくあまり目立たない。下面は白地に黄赤褐色の横斑があるが個体差がある。雌の上面は灰褐色で下面は白地に褐色の横斑がある。

[選定理由] 留鳥として県内で繁殖するが少ない。

[分布と生態の概要] ロシア東部・エニセイ川からオホーツク沿岸まで、サハリン・日本・韓国と広範囲で繁殖。北部で繁殖したものはインド・東南アジア・中国南部に渡る。日本では本州以北で繁殖し留鳥、秋・冬は日本全体に分散する。県内では低山帯、人里に周年見られるが少ない。県南地方より津軽地方の生息密度が高い（小山, 2010）。夏期は農耕地付近の林に生息するものが多いが、冬期は河川敷の茂みや市街地の公園などで小鳥を追うのを見かける。ペットショップや鳩舎近くにはスズメなどの小鳥が集まるため出現頻度が高い。“キイーキイーキイー”と鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] これまで注目されることがなかった雑木林などが、大規模ソーラー発電所の設置に伴い大規模な伐採が行われるようになった。

[特記事項] 日露渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 オオタカ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Accipiter gentilis fujiiyamae* (Linnaeus)

[形態的特徴] 全長雄50cm・雌57cm。翼開長106～131cm。雄はハシボソガラス大、雌はハシブトガラス大。翼は幅広く短く、尾は長い。体の上面は暗青灰色で、尾には4本の黒帯がある。頬は青黒色で眉斑は明瞭。下面は白地に黒くて細かい横斑が一面にある。目は黄色だが、雄には赤味が強いものもいる。腰の脇が白く見えることがある。

[選定理由] 営巣地である疎林が減少している。

[分布と生態の概要] 亜種オオタカはサハリンと日本で繁殖している。国内では北海道～九州の低山～産地の林で繁殖し、留鳥であるが山地に生息する個体は厳冬期に里へ移動する。県内では低山帯から市街地まで広い範囲で見られるが数は少ない。太平洋側より日本海側、特に津軽地方の中央部で比較的密度が高い（小山, 2010）。小鳥やカモ類を襲い捕食する。水面上で狩りをした際は、水鳥を水に沈めて溺死させ、翼を使い泳ぐようにして岸にたどり着く。“ケッケッケッ”や“ピョー”などと鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] これまで注目されることがなかった雑木林などが、大規模ソーラー発電所の設置に伴い大規模な伐採が行われるようになった。

[特記事項] 日露渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 サシバ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Butastur indicus* (Gmelin)

【形態的特徴】 全長雄47cm・雌51cm。翼開長103～115cm。ハシボソガラス大。体の上面は褐色で、白い眉斑がある。頬は灰色、喉は白く中央に黒い縦線がある。下面は白く胸と腹には褐色横斑がある。尾は灰褐色で数本の黒帯がある。

【選定理由】 渡来数が少なく、繁殖は少数。

【分布と生態の概要】 ロシア東南部・アムール川流域、中国北東部・韓国・日本で繁殖。冬期はマレー半島・インドシナ・フィリピン・モルッカ諸島・ニューギニア島に渡る。夏鳥として九州～本州に渡来するが南西諸島では越冬する。県内では渡り時に少数見られる他、白神山地・つがる市で繁殖するようになった。林縁部で採餌する。“ピクィー”と鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 県内での繁殖確認は最近なので今後の推移を見守る必要がある。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

タカ目 タカ科**B**

和名 ケアシノスリ

環境省：該当なし

学名 *Buteo lagopus menzbieri* (Pontoppidan)

【形態的特徴】 全長雄56cm・雌59cm。翼開長124～143cm。翼は幅広く、尾は短くて丸い。頭部は灰白色で褐色の縦斑があり、体の上面は褐色で灰白色の羽縁がある。ノスリは喉が褐色だが、本種は灰白色。尾は白く先に褐色の帯が1本。

【選定理由】 冬鳥として渡来するがごく少ない。

【分布と生態の概要】 ロシア北部のエニセイ湾から東のチュクチ半島・カムチャツカ半島に至る地域で繁殖。冬は中国南部・韓国・日本に渡る。国内ではまれな冬鳥としておもに北日本や日本海側の草原・荒野・農耕地・干拓地などに渡来する。県内ではおいらせ町・三沢市などの農地に見られる。停空飛翔を頻繁に行い、ネズミ・小鳥を捕食する。“ピーエ”と鳴く。 (関下斉)

鳥類

フクロウ目 フクロウ科**B**

和名 オオコノハズク

環境省：該当なし

学名 *Otus lempiji semitorques* (Horsfield)

【形態的特徴】 全長23.5～26cm。翼開長54～60cm。体には褐色・灰白色・黒色の複雑で細かい斑、後頸には灰白色の斑がある。目は橙色。翼の下面は淡褐色で、風切りには黒色横斑がある。足指に羽毛がある。

【選定理由】 留鳥として生息するがごく少ない。あるいは夜行性であり生態がよくわかっていない。

【分布と生態の概要】 サハリン・千島列島・日本・韓国で繁殖。国内では留鳥として全国的に分布し、低地・山地の林に住む。大木のある寺社に見られることがある。冬期には木の茂みや竹林などに数羽が集まることある。“ウォウウォウ、ポッポッポッポ、ミャオ、キューリン”などと鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 寺社林の減少、危険木として樹洞のある枯木の過度の伐採など。

【特記事項】 日露渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

フクロウ目 フクロウ科**B**

和名 アオバスク

環境省：該当なし

学名 *Ninox scutulata japonica* (Raffles)

【形態的特徴】 全長27～30.5cm。翼開長66～70.5cm。羽角はなく尾が長い。頭部から体の上面は一様に黒褐色で尾には黒帯がある。目は黄色。体の下面は白地に黒褐色の太い縦斑がある。翼の下面は淡くて黒褐色の横斑がある。

【分布と生態の概要】 日本・韓国で繁殖。冬期はマレー半島・フィリピン・大スンダ列島・スラウェシ島に渡る。国内では主に夏鳥として全国的に渡来。伊豆諸島など冬に見られる地域もある。低地～山地の林にいるが、樹洞に営巣することから寺社林などに見られることが多い。夕方から活動し、大型の昆虫を捕る。街灯に集まる昆虫を捕食することから、街灯付近を飛び回ることがある。“ホッホ ホッホ ホッホ”と連続して鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 寺社林の減少、危険木として樹洞のある枯木の過度の伐採など。

【特記事項】 日露渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

ブッポウソウ目 カワセミ科**B**

和名 アカショウビン

環境省：該当なし

学名 *Halcyon coromanda major* (Latham)

【形態的特徴】 全長27.5cm。体の大部分は黄褐色を帯びた赤で上面には紫色の光沢があり、腰にはるり色の羽毛がある。嘴は太くて赤く、足も赤い。

【選定理由】 夏鳥として渡来するが局所的で数は少ない。

【分布と生態の概要】 中国北東部・韓国・日本で繁殖。冬期はフィリピンやスラウェシ島に渡る。国内では夏鳥として全国的に渡来する。よく茂った林で繁殖する。県内では十二湖・白神山地・十和田八幡平国立公園・津軽半島・下北半島などの湖沼・溪流近くの大樹が茂る森林に生息。“キョロロロロ”と鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 危険木として樹洞のある枯木の過度の伐採。カメラマンなどによるストレス。

【特記事項】 日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

ブッポウソウ目 ブッポウソウ科**B**

和名 ブッポウソウ

環境省：絶滅危惧ⅠB類

学名 *Eurystomus orientalis calonyx* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長29.5cm。ハトより少し小さく翼は長い。頭部はすすけた黒、体は青緑色で、翼には白斑がある。嘴と足は赤い。

【選定理由】 夏鳥として渡来するが数が少ない。

【分布と生態の概要】 インド北部から中国・韓国・日本で繁殖。冬期は東南アジア等に渡る。国内では本州～九州の低地～山地の大きな杉の木などがある場所に渡来する。県内では夏鳥で白神山地・十和田八幡平国立公園などの山林に生息するが個体数は少ない。樹洞で営巣し、キツツキ類の古巣を利用することがある。“ゲゲゲ ゲーゲゲ”などと鳴く。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

タカ目 ハヤブサ科

B

和名 ハヤブサ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Falco peregrinus japonensis* Tunstall

[形態的特徴] 全長雄41cm・雌49cm。翼開長84～120cm。頭から後頸は石版黒色。背・翼・尾は暗青灰色で、尾は比較的短く黒帯がある。頬にはヒゲ状の黒斑が目立つ。下面は白くて腹は黄褐色を帯びる黒斑がある。幼鳥は上面が褐色、下面が淡黄褐色で胸から腹に黒褐色の縦斑がある。

[分布と生態の概要] シベリア東北レナ川からアナディランド・チュクチ半島・カムチャツカ・サハリン・クリル・韓国・日本で繁殖。冬期はサハリン・中国・韓国・日本に移動し、ときに台湾・フィリピン・ボルネオに移動する。主に海岸などの断崖で繁殖するが、最近ではビルなどでの繁殖例もある。冬は全国の海岸・河口・湖畔・原野・農地などの開けた場所に住み、急降下して狩りを行う。“ケーケーケー”と鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] 営巣場所の断崖の保全と、レジャーなどのストレスの軽減が必要。

[特記事項] 国内希少野生動物種・日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約指定種。 (関下斉)

スズメ目 サンショウクイ科

B

和名 サンショウクイ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Pericrocotus divaricatus divaricatus* (Raffles)

[形態的特徴] 全長20cm。体は細くて尾は長め。嘴の先は少しかぎ型に曲がる。雄は額が白く、頭頂から後頸と過眼線は黒い。背から腰は灰色で、中央尾羽が黒くて外側尾羽は白い。翼下面は飛翔中に白線が入る。

[選定理由] 旅鳥あるいは夏鳥として渡来するが少ない。

[分布と生態の概要] 中国北東部・日本で繁殖。冬は東南アジアなどに渡る。国内では本州以南の低地～山地の落葉広葉樹林に夏鳥として渡来。県内では深浦町岩崎、十二湖周辺ではよく見られる。太平洋側では旅鳥的な出現だったが夏鳥として見られる機会が増えている。高い木の枝に止まりよく鳴く。鳴きながら浅い波形を描いて飛ぶ。“ヒーリリ ヒーリリ”と鳴く。

[生存に対する脅威と保存対策] 広葉樹林の保全が必要。

[特記事項] 日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

スズメ目 カササギヒタキ科

B

和名 サンコウチョウ

環境省：該当なし

学名 *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton)

[形態的特徴] 全長雄44.5cm・雌17.5cm。雄の中央尾羽はとても長い。雄は頭部と胸・脇が紫黒色で、背は紫黒褐色。嘴と目の外縁はコバルト色で、腹は白い。雌の尾は雄よりも短く、頭部の黒色や目の外縁のコバルト色も淡く、背と尾は橙紫褐色。雄の若鳥の尾は短い。

[選定理由] 夏鳥として渡来するが数は少ない。

[分布と生態の概要] 日本と韓国で繁殖し、冬期はマレーシア・インドネシアに移動する。国内では夏鳥として本州以南の低地～山地のよく茂った林に渡来する。県内では局所的に生息する。雄雌ともに“チーチョー ホイホイホイ”と鳴く。鳴き声を「月日星」と聞きなししサンコウチョウ（三光鳥）と呼ばれるが、県内方言名サンコウ（三光）はイカルを示す。

[特記事項] 日中渡り鳥保護協定指定種。 (関下斉)

スズメ目 ホオジロ科**B**

和名 コジュリン

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Emberiza yessoensis yessoensis* (Swinhoe)

【形態的特徴】 全長14.5cm。雄の夏羽は頭部から喉が黒く、目の上に白斑を持つ個体がいる。後頸から胸側は赤茶色、背は赤褐色で黒い縦斑とバフ色の羽縁がある。雌の頭は黒褐色で、眉斑と頬線はバフ色。

【選定理由】 湿地付近の草地が減少し、生息個体数が少ない。

【分布と生態の概要】 満州南東・ウスリーランド・日本で繁殖する。冬期は国内南部、韓国、中国東部に移動する。国内では本州の中部と北部、九州の一部で繁殖するが局所的。冬期は本州中部以南のヨシ原や草地に移動する。県内では低地の湿原で繁殖し岩木川下流、山田川中流、鳥谷川下流、屏風山、小川原湖湖沼群湿地・草地に生息する。“チィ チョ チリ チョ チリ”などと優しげな声で鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 休耕田の増加に伴い数が増えたが耕作の有無に左右される数は不安定。
(関下斉)

スズメ目 ホオジロ科**B**

和名 オオジュリン

環境省：該当なし

学名 *Emberiza schoeniclus pyrrhulina* (Linnaeus)

【形態的特徴】 全長16cm。雄の夏羽は黒い頭部と喉の間に白い頬線がある。後頸は白く、背は赤褐色に黒とバフ色の縦斑がある。雌はバフ色の眉斑と頬線がある。

【選定理由】 夏鳥として繁殖するものは少なく、局所的。

【分布と生態の概要】 カムチャツカ・千島列島・サハリン・アムール流域・ウスリー流域・北海道・本州北部で繁殖。国内では東北以北の湿原で繁殖。冬期は主に本州中部以南の低地のヨシ原にいる。県内では小川原湖湖沼群などの湿地・草原で繁殖する。冬期には大陸や北海道から移動してきた群れが見られる。ゆっくりとしたテンポで“ジュリ チュリー”などと鳴く。

【生存に対する脅威と保存対策】 繁殖地となるヨシ原や草原の減少。

【特記事項】 日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

キジ目 キジ科**C****和名 ヤマドリ****環境省：該当なし****学名** *Syrnaticus soemmerringii scintillans* (Temminck)

全長雄125cm、雌50cm。雄は赤銅色の体に褐色と白の縞模様の長い尾。雌は腹部が茶と白の鱗斑があり尾は雄より短い。日本特産種、日本に5亜種ある中で一番北に分布する亜種。関西以北に分布し本県が分布の北限。主に標高1,500m以下の山地に生息する。針葉樹林・落葉広葉樹林・混交林などに広く生息し、厳寒の頃には標高の低い人里にも出現する。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。
(関下斉)

カモ目 カモ科**C****和名 オオヒシクイ****環境省：準絶滅危惧****学名** *Anser fabalis middendorffii* Severtzov

ヒシクイよりやや大形のガン。ヒシクイによく似ているが首が長く、嘴がほっそりし、黒い嘴先の黄色が特徴。“ガハハーン”と太く低い声で鳴く。アジア北部のタイガ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来、宮城県伊豆沼などで越冬する。県内では越冬個体は少なく、春秋の渡り時に休息地、採餌場所として立ち寄るものが多い。マガンと同様、大湊湾や浅所海岸、各地の湖沼、溜池、湿原、水田、休耕田で休息、採餌する。警戒心が強く、休息、採餌には他のガン類と同様、見通しのよい場所を選ぶ。採餌、休息、ねぐらとなる湖沼、溜池などの保全が必要である。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。国の天然記念物、日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。
(関下斉)

カモ目 カモ科**C****和名 ヒシクイ****環境省：絶滅危惧Ⅱ類****学名** *Anser fabalis serrirostris* (Latham)

全長85cm、翼開長160cm、大形のガンで黒褐色の体色、黒い嘴先の黄色が特徴。“ギャハハーン”と鳴く。ヨーロッパ・アジア北部のツンドラ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。県内では越冬個体は少なく、渡りの中継地、休息地として立ち寄るものが多い。マガンと同様、大湊湾や浅所海岸、各地の湖沼・溜池・湿原・水田・休耕田などで休息、採餌する。まれに山地のダム湖で休息する。春秋の渡り時には20~50羽の群が白神山地上空、市街地上空を編隊を組んで渡るのが見られる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。国の天然記念物、日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。
(関下斉)

カモ目 カモ科**C****和名 ヨシガモ****環境省：該当なし****学名** *Anas falcata* Georgi

全長48cm、翼開長80cm、中形のカモ。成鳥雄の頭部は紅紫色と緑色の光沢のある黒色で、ナポレオンの帽子のような後方に伸びる冠羽、のどの白と黒い横線が特徴。北海道以北で繁殖し、本州以南には冬鳥として渡来する。浅い海湾に多く、海岸の干潟・湖沼・池・水田・沼沢などにも生息する。県内では春期に見ることが多い。十三湖西の明神沼、小川原湖湖沼群など限られた水辺に出現するが個体数は少ない。狩猟鳥であるが生息数が減少しているため、青森県では捕獲の自粛を指導している。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。
(関下斉)

カモ目 カモ科**C**

和名 ハシビロガモ

環境省：該当なし

学名 *Anas clypeata* Linnaeus

全長雄51cm、雌43cm、翼開長雄84cm、中形のカモで大きく幅広で先がスコップ状の嘴が特徴。シベリア東北部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、海湾・湖沼・河川などに生息する。県内では湾内、湖沼、河川、水田など広範な水辺に他のカモ類に混じり少数が出現する。狩猟鳥であるが生息数が減少しているため、青森県では捕獲の自粛を指導している。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日豪渡り鳥保護協定・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

カモ目 カモ科**C**

和名 シマアジ

環境省：該当なし

学名 *Anas querquedula* Linnaeus

全長38cm、翼開長61cm、小形のカモで旅鳥。雄は赤褐色の顔に太く白い眉斑が目立つ。ヨーロッパ・アジア大陸中部で繁殖、冬期はアジア南部・アフリカ中部に渡る。日本には渡りの時期に湖沼・河川・海岸などの水辺に生息する。県内では春秋、少数が各地の湖沼、河川などに出現するが、春に繁殖羽となり雄の白い眉斑が目立つことから春期出現の記録が多い。三沢市仏沼で繁殖の記録がある。コガモの群れに混じることが多く、水面に浮かぶ植物質のものを採餌し、干潟では貝類を食べる(日本野鳥の会青森県支部・弘前支部, 2001)(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

カモ目 カモ科**C**

和名 トモエガモ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

学名 *Anas formosa* Georgi

全長40cm、翼開長67cm、小形のカモで、雄は顔の黒緑色とクリーム色のともえ模様が特徴。シベリア東部で繁殖し、日本には冬鳥として少数渡来し、湖沼、池、沼沢、湿地の草原、水田、河川、港湾などに生息する。県内では越冬個体はなく春秋の渡り時、他のカモ類と混じりまれに渡来する。大群のカモ類に混じり1羽で出現することが多く見逃される場合が多い。つがる市森田の狭ヶ館溜池では春の渡り時に数羽～数十羽の群で出現することがある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

カモ目 カモ科**C**

和名 コオリガモ

環境省：該当なし

学名 *Clangula hyemalis* (Linnaeus)

雄は全体が白っぽく、長い尾羽のため全長は約60cm。雌は全体が黒褐色で約38cm。ユーラシア北部・北アメリカ北部等の極北部で繁殖、カムチャツカ半島から中国北東部沿岸・アリューシャン列島から北アメリカ西海岸・イギリスや北海沿岸等で越冬する。国内へは冬鳥として北海道と本州北部の海上や沿岸に渡来するが、本州北部では少ない。県内では、陸奥湾や太平洋沿岸の一部で1～数羽が見られる。かつてはごく少数が毎年渡来していたが、近年は出現頻度が減少した。沿岸部の開発等が生息環境に影響を及ぼす可能性があり、保護区等に指定し環境保全の必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

カイツブリ目 カイツブリ科**C****和名** カムリカイツブリ**環境省：絶滅のおそれのある地域個体群（青森県）****学名** *Podiceps cristatus cristatus* (Linnaeus)

全長56cm、翼開長85cm、首が長く前面が白、日本最大のカイツブリ。目先に嘴と結ぶ黒い線。夏羽は黒い冠羽と顔に赤褐色と先端の黒い飾り羽が特徴。冬羽では顔に飾り羽がなく、首前方の白と首後方の黒が目立つ。ヨーロッパからアジア東部まで広く分布、南半球のオーストラリア、ニュージーランドにも留鳥として生息する。日本では主に冬鳥として九州以北の湖沼、河川、海上などに渡来し、北日本の一部で繁殖している。県内では各地で繁殖し、特に津軽地方の湖沼、河川で個体数増加、生息分布域の拡大が著しい（青森県レッドデータブック2010年改訂版（小山, 2010）を引用）。
日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 **（関下斉）**

ハト目 ハト科**C****和名** アオバト**環境省：該当なし****学名** *Treron sieboldii sieboldii* (Temminck)

全長33cm、翼開長55cm、緑色のハト。雄は肩が栗茶色。日本全国の山深い森林地域に生息する。本州中部以南では留鳥、県内では夏鳥で冬は積雪の少ない南日本へ移動する。白神山地・津軽半島・十和田国立公園・下北半島など、ブナ・ミズナラなどの混じる各地の森林に広く生息しているが個体数は少ない。白神山地に含まれる西目屋村の目屋ダムとこれと関連する河川流域は出現頻度が高い。“アオー、アオー”と不気味な声でさえずり、森林中での生息確認はこの鳴き声の主である。海水を飲む習性があり、西海岸や下北半島などの海辺の岩礁地帯に20～50個体の群で出現する。（青森県レッドデータブック2010年改訂版（小山, 2010）を引用）。
（関下斉）

カモ目 カモ科**C****和名** マガン**環境省：準絶滅危惧****学名** *Anser albifrons albifrons* (Scopoli)

全長72cm、翼開長138cm、中型のガンで暗褐色の体色、成鳥は桃橙色の嘴とそのつけ根の白が特徴。“カハハン、カハハン、クワワワ”と鳴く。北極圏の湿原で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。県内では越冬個体は少なく、春と秋の渡りの中継地、休息地として立ち寄るものが多い。海岸部では大湊湾や浅所海岸、内陸部では各地の湖沼、溜池、湿原、刈り取り後の水田、休耕田に出現し、休息、採餌する。（青森県レッドデータブック2010年改訂版（小山, 2010）を引用）。国の天然記念物。
日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。 **（関下斉）**

カモ目 カモ科**C****和名** コクガン**環境省：絶滅危惧Ⅱ類****学名** *Branta bernicla orientalis* (Linnaeus)

全長61cm、翼開長115cm、小形のガンで全体が黒い。白い首輪、腹部側面と下尾筒の白が特徴。北極圏のツンドラ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、北日本の限られた湾や内海に生息する。県内では陸奥湾のむつ市大湊海岸・青森市原別海岸・横浜町横浜海岸、八戸市種差海岸が主な生息地である。津軽半島上磯海岸、下北半島大畑海岸にも少数渡来し、日本海岸にも出現するがまれである。主として海上、海磯、海岸の荒磯、海岸の浅瀬に生息し、時に河川、湖沼や干潟などに飛来する。（青森県レッドデータブック2010年改訂版（小山, 2010）を引用）。国の天然記念物。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。
（関下斉）

ツル目 クイナ科**C**和名 **バン**

環境省：該当なし

学名 *Gallinula chloropus chloropus* (Linnaeus)

全長32cm、翼開長52cm、全体が黒く、下尾筒の白、嘴と額板の赤が特徴。水を泳ぐが水掻きがない。インド・スリランカからインドネシア・中国東部・朝鮮・日本で繁殖。冬期は中国南部、東南アジアへ渡る。日本全国に生息し、本州南部では留鳥、県内では夏鳥で冬は積雪の少ない地方へ移動する。湖沼、河川、水田、公園の壕など各地の水辺に生息繁殖している。近年個体数が減少し、公園の壕、町中や集落付近の水辺に出現することはまれとなった。公園の壕など町中の水辺からの退去は、環境整備による身を隠す水生植物の減少、営巣適地の減少とカラスの捕食圧によるものと考えられる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)**カッコウ目 カッコウ科****C**和名 **ジュウイチ**

環境省：該当なし

学名 *Hierococcyx hyperythrus* (Gould)

全長32cm、翼開長56cm。頭と背が黒く、胸から腹が褐色で首の後に白斑。腹には横縞がない。“ジュウイチー・ジュウイチー・ジュウイチー、ジユクジユクジユク”と昼夜鳴く。ロシア東南部、中国東部、東南アジアに生息。日本全国に夏鳥として渡来、山林に生息し、冬は東南アジアに渡る。県内では5～7月各地の山林で鳴き声を聞くが、近年出現頻度が減少している。コルリ・オオルリ・コマドリ・ルリビタキ・キビタキ・ビンズイ・クログミ・アカハラ・コサメビタキなどに托卵することが知られている(清棲, 1978b)。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)**チドリ目 チドリ科****C**和名 **タゲリ**

環境省：該当なし

学名 *Vanellus vanellus* (Linnaeus)

全長32cm、翼開長84cm、頭に黒く後ろに伸びた冠毛と胸の太い黒帯が特徴。白、黒が目立つ幅広の翼でゆったりと飛ぶ。ヨーロッパからアジアに広く分布繁殖し、日本には冬鳥として渡来、雪の少ない地方の水田・河川、湖沼などの湿地で越冬する。北陸地方や関東北部で繁殖記録がある。県内には春と秋に旅鳥として出現し、各地の水田、休耕田、河川敷、湖沼の湿地に生息するが個体数は少ない。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)**チドリ目 シギ科****C**和名 **オグロシギ**

環境省：該当なし

学名 *Limosa limosa melanuroides* (Linnaeus)

全長38cm。夏羽では頭部から胸部が赤褐色で目立つ。嘴は太く長く淡い紅色で先は黒い。足は黒く、尾羽は白く先は黒い。ユーラシアの中部から北部で繁殖、アフリカ・インド・オーストラリアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが多くない。県内では水田・湿地・干潟・河口等に渡来するが少ない。1～数羽で行動しゴカイ類・貝類・甲殻類などを採食する。生息地である水田・湿地・干潟等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**C**

和名 ソリハシギ

環境省：該当なし

学名 *Xenus cinereus* (Güldenstädt)

全長23cm。夏羽では頭部から上面が灰褐色になる。嘴は黒く長めで上に反り基部は橙黄色で、足は短めで橙黄色。ユーラシア北部で繁殖、アフリカ・東南アジア・オーストラリア等で越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。県内には水田・干潟・砂浜・河口等に渡来するが数は少ない。1～数羽で行動し、甲殻類や昆虫類などを採食する。生息地である水田・干潟・砂浜・河口等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**C**

和名 オバシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris tenuirostris* (Horsfield)

全長約28cm。夏羽は上面が黒褐色で肩には赤褐色の斑がある。胸部は黒褐色の縦斑がよく目立つ。冬羽は頭部・胸部・上面が灰褐色になる。嘴は黒色で足は暗緑黄色。シベリア東北部で繁殖、インド・東南アジア・オーストラリアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。県内では水田・河口・干潟・海岸等に少数が渡来する。小群で行動し貝類・ゴカイ類・甲殻類などを採食する。生息地である水田・河口・干潟・海岸などが開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**C**

和名 コオバシギ

環境省：該当なし

学名 *Calidris canutus rogersi* (Linnaeus)

全長約24.5cm。夏羽では顔から胸部まで赤褐色でよく目立つ。頭部から背面は赤褐色と黒と白の斑模様。嘴は黒く基部は太め、足は緑黄色。シベリア北部・北アメリカ北部等で繁殖、国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが数は少ない。県内では水田・干潟・河口・海岸等にまれに渡来する。1～数羽で行動し、ゴカイ類や甲殻類などを採食する。生息地の水田・干潟・河口等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**C**

和名 オジロトウネン

環境省：該当なし

学名 *Calidris temminckii* (Leisler)

全長約14cm。夏羽では頭部から上面が灰褐色で黒い軸斑と淡橙色の羽縁が目立つ。冬羽は一様に灰褐色になる。嘴は黒く、足は黄緑色。ユーラシアの北部で繁殖、アフリカ東部・インド・東南アジアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが少ない。本州中部以南では越冬するものもある。県内では湿地・水田・湖沼の岸などにごく少数が渡来する。甲殻類や昆虫類などを採食する。生息地である湿地や湖沼の岸等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

チドリ目 シギ科**C****和名** ヒバリシギ**環境省：該当なし****学名** *Calidris subminuta* (Middendorff)

全長約14cm。夏羽では頭部と上面は茶褐色。胸部と脇は黒褐色の縦斑がある。冬羽は上面が灰褐色になる。嘴は細く黒い。足は黄緑色。シベリアからカムチャツカ半島で繁殖し、オーストラリアや東南アジアで越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来する。沖縄県では少数が越冬する。県内には水田・湿地・埋立地等にごく少数が渡来する。1～数羽で行動し、甲殻類や昆虫類を採食する。

生息地である湿地・水田等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定して、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)**チドリ目 シギ科****C****和名** ウズラシギ**環境省：該当なし****学名** *Calidris acuminata* (Horsfield)

全長約22cm。夏羽では頭頂部の茶褐色が目立つ。冬羽は頭頂部の茶褐色が少し淡くなる。嘴は先部は黒く、基部は淡色。足は黄緑色。シベリア北部で繁殖、オーストラリア・ニュージーランド等で越冬する。国内へは旅鳥として春と秋に渡来するが多くない。県内には水田・湿地・池や沼等の湿泥地等に少数が渡来する。甲殻類・貝類・昆虫類などを採食する。生息地である水田や湿地等が開発等により減少したり消滅している。近年、出現頻度が減少している。保護区等に指定し、生息環境を保全する必要がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日米渡り鳥条約・日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定・日豪渡り鳥条約指定種。

(関下斉)**カモ目 カモ科****C****和名** オカヨシガモ**環境省：該当なし****学名** *Anas strepera strepera* Linnaeus

全長50cm、翼開長89cm、中形の地味な色彩のカモ。雄は体が灰色で尻が黒い。雌雄とも飛んだとき次列風切の白色が特徴。ヨーロッパ・アジア・北アメリカ大陸の中部で繁殖し、日本には冬鳥として少数が渡来する。湖沼・沼沢・河川・水田・湿地に生息する。少数は北海道でも繁殖する。県内には主に春秋の渡り時に少数が出現する。八戸市の馬淵川・新井田川河口では毎年少数越冬することが知られている。その他各地の水辺に出現するが、目立たないため記録されないことが多いようである。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)**タカ目 タカ科****C****和名** ハチクマ**環境省：準絶滅危惧****学名** *Pernis ptilorhynchus orientalis* (Temminck)

全長雄57cm・雌61cm、翼開長121～135cm。トビより少し小さい。飛んでいる時首が長く見え、翼・尾に横の黒帯が目立つ。体色の変異が大きく暗色形、淡色形、中間形がある(森岡ら, 1995)。ロシア南部、エニセイ川からアムール流域・ウスリー地方・朝鮮・日本で繁殖。冬期は亜熱帯、熱帯地方に渡る。日本では夏鳥で各地の低山地帯に少数が生息する。県内では太平洋側より日本海側の山地に多く出現する。5月中下旬に渡来し繁殖期は他のタカ類より遅い。6月に求愛の波状飛行、両翼をV字状にした停空飛翔がよく見られる。クロスズメバチなどのハチやカエル・ネズミ・小鳥を食べる。ハチクマはハチを食べるクマタカの意である。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。

(関下斉)

フクロウ目 フクロウ科**C**

和名 フクロウ

環境省：該当なし

学名 *Strix uralensis hondoensis* Pallas

全長48～52cm、翼開長92～102cm。羽角がなく雪だるまのような丸く大きな頭部、幅広く短い翼、たんだ翼の先端より尾が長く出る。体の上面は灰褐色で黒色・褐色の斑紋がある。日本には4亜種が知られ、亜種フクロウは東北地方、栃木、新潟北部に分布し本県が北限。県内では山林、社寺林、老木のあるリンゴ園など広範に生息するが個体数は少ない。2月頃から「ゴロスケモッコ」と盛んに鳴き、4月下旬～5月下旬には雛が見られる。夜行性だが育雛期には昼でも餌運びをすることがある。樹洞に営巣、タカ類の巣や巣箱も利用する。ネズミや小鳥などを餌にする。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。(関下斉)

フクロウ目 フクロウ科**C**

和名 トラフズク

環境省：該当なし

学名 *Asio otus otus* (Linnaeus)

全長35～40cm、翼開長91～102cm。耳の形をした羽角が長く、両目の内側に額から嘴にかけて白色の線が目立ち、一見リスを思わせる容貌。目は橙色である。ヨーロッパからアジア、北アメリカと生息分布が広い。我が国では北日本の林で繁殖し、冬期は本州以南で越冬する。県内では津軽地方に比較的多く、人里近くの林、社寺林に生息・繁殖している。巣はカラス、トビの古巣を利用することが多く、樹の穴にも営巣する。成鳥は繁殖期に“オーオー”と鳴き、巣立ち間もない幼鳥は夜通し“キーキー”とブランコがきしむように鳴く。餌はネズミを主食とし小鳥、昆虫も食べる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(関下斉)

ブッポウソウ目 カワセミ科**C**

和名 ヤマセミ

環境省：該当なし

学名 *Megaceryle lugubris lugubris* (Temminck)

全長38cm、翼開67cm。白黒斑で日本最大のカワセミ。頭部に白黒斑の冠羽がある。のどと腹部、翼の下面は白色で胸に帯状の斑点。飛ぶと翼下面の外周部と尾に白黒の帯が目立つ。日本に2亜種が生息し、亜種ヤマセミは本県が北限。各地の魚の多い溪流に少数生息。水面上を直線的に飛び“ケラ・ケラララ”とよく鳴く。止まり場所や停空飛翔から水中に飛び込みイワナ・ヤマメ・ウグイなどを食べる。河川の土手に穴をあけて巣をつくり子育てをする。留鳥であるが、結氷期は河川の下流に移動する。まれに、市街地の河川や公園の堀に出現することがあるが、長期間は滞在しない。白黒の斑点があるため鹿子しょうびんの俗称がある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。(関下斉)

キツツキ目 キツツキ科**C**

和名 アリスイ

環境省：該当なし

学名 *Jynx torquilla japonica* Linnaeus

全長18cm、翼開長28cm。特異なキツツキ。尾は角形、体色が灰褐色で、頭が大きく一見モズを連想させる。頭から背の中央に黒色の線、顔と体下面、尾の横縞が特徴。日本全国に分布、中部日本以南では留鳥、県内では夏鳥で4～5月各地に少数が飛来する。渡来直後にはタカに似た声で“キィーキィキィキィ”とよく鳴く。直線的に飛び枝に普通の小鳥のように止まる。キツツキ類古巣や樹幹の裂目で営巣し、巣箱も利用する(清棲, 1978a)。チゴハヤブサに似た鳴き声を出すため、これと間違われることが多い。不吉な鳥とされ属名の *Jynx* はジnkスの語源(内田, 1983)。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日米渡り鳥等保護条約指定種。(関下斉)

キツキ目 キツキ科**C**

和名 オオアカゲラ

環境省：該当なし

学名 *Dendrocopos leucotos stejnegeri* (Bechstein)

全長28cm、翼開長49cm。体色は白と黒が目立ち翼と尾に黒色の横縞がある。胸部の白色に黒の縦斑が特徴。成鳥雄は頭部の上部と下腹部が赤色、幼鳥の頭部も赤いが下腹部は白い。成鳥雌の頭部は黒色である。日本に4亜種が生息し、亜種オオアカゲラは本州中部、北部に分布する留鳥で、本県が北限である。低山帯から奥深い森林まで広い範囲で見られるが個体数は少ない。大樹の多い広面積の森林に比較的好く見られる。“キョキョキョ”と鳴き、主に朽木などの昆虫を食べるが、積雪期には里でカキを食べることがある。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。

(関下斉)

ハヤブサ目 ハヤブサ科**C**

和名 チョウゲンボウ

環境省：該当なし

学名 *Falco tinnunculus interstinctus* Linnaeus

全長雄33cm、雌39cm。翼開長69~76cm。小形のハヤブサで尾が長く数本の細い横縞と先端に黒い広い帯がある。ヒマラヤ地方・中国・朝鮮・日本・北ミャンマー・北インドネシアで繁殖、冬期はインド・マレー半島・北インドネシアに渡る。日本では近年、全国的に人工的建造物で繁殖する例が増え、県内でも同様である。県内では留鳥で各地の里山・耕地・河川・市街地に出現するが個体数は少ない。まれに岩木山等、標高の高い山地に出現し、上昇気流で吹き上げられた昆虫や尾根越えする小鳥をねらう。稲穂を貯蔵するントリーエレベーター付近には年中見られ、農耕地や河川敷、農道やバイパス近くの電線・樹木・標識に止まり、上空を帆翔・停空飛行する。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。

(関下斉)

ハヤブサ目 ハヤブサ科**C**

和名 コチョウゲンボウ

環境省：該当なし

学名 *Falco columbarius insignis* Linnaeus

全長は、雄が約28cm、雌が約32cm。雄は頭部と背部の上面は青灰色で、胸部から下面は橙褐色で黒色の縦斑がある。雌は上面が灰褐色で、胸部は暗褐色である。北アメリカ北部・ユーラシア北部で繁殖し、アフリカ北部・インド・中国東南部・北アメリカ中南部で越冬する。国内へは冬鳥として渡来するが多くない。県内では河川敷・農耕地・干拓地等にごく少数が渡来する。おもに小鳥類を採食するが小型哺乳類や昆虫類も食べる。農耕地や河川敷等の開発や河川改修等の工事により環境悪化が進むと同時に、生息地が減少、消滅している。保護区等に指定したり、環境に配慮した工事等の対策が必要である。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(阿部, 2010)を引用)。日露渡り鳥条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

ハヤブサ目 ハヤブサ科**C**

和名 チゴハヤブサ

環境省：該当なし

学名 *Falco subbuteo subbuteo* Linnaeus

全長34~35cm、翼開長72~84cm。ハト大の小型のハヤブサである。頬にひげ状の黒斑、後頸に2個の白い眼状紋、れんが色の足の付け根と腰が特徴。亜種チゴハヤブサは中国北部及び東部・北ミャンマー・北インドネシア・北日本で繁殖し、冬期は東南アジア、ジャワ島に渡る。県内では夏鳥で4月下旬から5月上旬に渡来、各地の集落、市街地の寺社林や公園の林・農耕地の防風林等で少数が繁殖している。独自の巣は作らず6月上旬頃からカラスやトビの古巣を利用して営巣、育雛し、10月下旬~11月上旬に渡去する。餌はスズメ、カワラヒワ、逃げた飼鳥インコ等の小鳥、コウモリ、昆虫などである。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

スズメ目 カラス科**C****和名** ホシガラス**環境省：該当なし****学名** *Nucifraga caryocatactes japonica* (Linnaeus)

全長35cm、翼開長60cm、黒褐色に白い斑点が特徴。尾羽の先が白い。亜種ホシガラスは留鳥として千島列島のウルップ島、北海道・本州・四国・九州のハイマツなどの生育する場所に生息する。県内では下北半島・津軽半島・白神山地・岩木山・八甲田山系など各地に生息しているが個体数は少ない。夏は標高の高い場所に多く、秋・冬は標高の低い林地にも漂行する。県民の森、梵珠山では秋ブナの実を食べる小群が出現する。春と秋、小泊岬から竜飛崎にかけ群で移動するものがあり、北海道との渡りの可能性もある。移動中の個体は林地ばかりでなく、崖・岩場・海岸などにも出現する。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。(関下斉)

スズメ目 キバシリ科**C****和名** キバシリ**環境省：該当なし****学名** *Certhia familiaris japonica* Linnaeus

全長14cm、翼開長20cm、頭部から背は淡褐色で白の縦縞、目の上に白の眉斑。胸、腹は白い。嘴は細く、先が下に曲がる。種としてはヨーロッパからアジア、北アメリカ南部と分布が広い。日本には2亜種が知られ、亜種キバシリは本県が生息の北限である。留鳥として本州中部では亜高山帯の混交林に生息するが、県内では低山帯の山林でも少数が繁殖している。木の多いやや暗い林地に出現し、生息数も少ないことから目にふれることがまれである。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。(関下斉)

スズメ目 ヒタキ科**C****和名** マミジロ**環境省：該当なし****学名** *Zoothera sibirica davisoni* (Pallas)

全長24cm、翼開長38cm。雄は全身が黒色で白色の眉斑が特徴。雌はオリーブ褐色で白色の眉斑、喉が白く、腹部に淡褐色の横斑がある。飛翔時は雌雄とも翼の下面に白と黒の帯ができる。サハリン、日本で繁殖、夏鳥として日本全国の山地に生息、冬は東南アジアに渡る。県内では各地のブナ林、ミズナラ林に生息しているが個体数は少ない。白神山地の林道などでは夕方、峠や尾根近くの樹上で“チョボチャー、キョロン・チャー”とよく通る声で鳴いている。地上でミミズや昆虫を捕食し、サクラの実も食べる。マミジロは眉が白いの意である。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。(関下斉)

スズメ目 ヒタキ科**C****和名** クロツグミ**環境省：該当なし****学名** *Turdus cardis* Temminck

全長22cm、翼開長34cm。雄は頭部・胸部・背・尾が黒色で、腹部は白色に黒色の三角斑が特徴。中国中部、日本全国で繁殖、冬期は中国南部で越冬。県内には夏鳥として4月に渡来、低山帯のやや暗い森林に生息する。各地の防風林、雑木林などで繁殖しているが、近年出現頻度が少なくなった。集落内のスギ林などにも生息し、早朝から木の梢で“キョロンキョロンキョコキョコキョッキョ”とよくさえずる。なわばり意識が強く、他の個体が接近すると“キョキョキョキョ・チャー”と激しく鳴いて威嚇する。地上でミミズや昆虫などを食べる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日中渡り鳥保護協定指定種。(関下斉)

カモ目 カモ科**C**

和名 ピロードキンクロ

環境省：該当なし

学名 *Melanitta fusca stejnegeri* (Linnaeus)

全長雄58cm、雌50cm、翼開長雄100cm、黒いカモで次列風切が白く、雄は目の下にあるどすのきいた三日月形白斑が特徴。シベリア東北部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、海洋・外海・海湾などに生息する。県内では主に太平洋沿岸に少数が出現、越冬している。日本海沿岸にも出現するがまれである。海ガモのクロガモと一緒にいることが多く、浅海で貝類を食べる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

スズメ目 ヒタキ科**C**

和名 コマドリ

環境省：該当なし

学名 *Luscinia akahige akahige* (Temminck)

全長14cm、翼開長21cm。頭部・胸部・尾が橙赤褐色、背と翼はやや黒ずんだ赤褐色。腹部中央は白色で周囲が灰色。胸を反らし尾を立てて“ヒン カラカラカラララ”と大声でさえずる。夏鳥として全国の山地に渡来し繁殖している。県内では白神山地、八甲田山系などに少数が生息している。高い木の梢に止まることはほとんどなく、茂みの地面や倒木・切株など地上の低い場所にいることが多い。春渡来直後は人家の植え込みや、低山帯の笹の多い小沢で見ることが多い。学名にあるアカヒゲは同属の異種和名である。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

スズメ目 イワヒバリ科**C**

和名 カヤクグリ

環境省：該当なし

学名 *Prunella rubida* (Temminck et Schlegel)

全長14cm、翼開長21cm。一見全体が暗褐色に見える。胸部から腹部は暗灰褐色で、背・翼・腰・尾は茶褐色に黒褐色の縦線がある。足は橙色で後指の爪が長い。日本全国の亜高山地帯に広く生息している。県内では白神山地、岩木山、八甲田山系などの標高の高い場所に生息している。わい化密生した樹木などの茂みで生活し、人目にふれることは少ない。春、秋には標高の低い灌木林にも出現する。積雪期には見られないことから、雪の少ない地方に移動していることが考えられる。日本だけに生息繁殖している日本特産種。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約指定種。

(関下斉)

スズメ目 セキレイ科**C**

和名 セグロセキレイ

環境省：該当なし

学名 *Motacilla grandis* Sharpe

全長21cm、翼開長30cm。頭部・胸部・背が黒色。目の上の眉斑と喉部分が白色。尾は長く大部分が黒色で外側が白色。腹部は白色である。嘴と足は黒色。日本全国に生息する留鳥。県内では近年生息数が減少し、出現地域も少なくなった。大きな河川の中上流部、山地の湖沼・河川で見られ、奥深い溪流では中流から下流部に出現する。溪流が海に注ぐ場所では海岸部にも見られる。冬期は平地の湖沼、市街地の河川にも飛来する。“ジュンジュン”と鳴きながら波状に飛ぶ。“チチージョイジョイジョイ”と美しい声でさえずる。昆虫を食べる。日本だけに生息繁殖している日本特産種。黒石市の鳥。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。

(関下斉)

スズメ目 ホオジロ科**C**

和名 ノジコ

環境省：準絶滅危惧

学名 *Emberiza sulphurata* Temminck et Schlegel

全長14cm、翼開長21cm、頭部は暗灰緑色で目のまわりが白いのが特徴。背は灰緑色と黒の縦縞があり、下面は硫黄色で脇にわずかに灰緑色の縦縞模様がある。日本特産種。本州に夏鳥として渡来、本州中部から北部の山地で繁殖、冬期は中国南部、台湾、フィリピンで越冬する。日本西南部でも越冬するものがある。本県は生息の北限で県内全域に出現繁殖するが個体数は少ない。繁殖期には低木混じりの草地、低山林地の林縁部、山地に近い河川敷などに出現、“チョンチョン、チョロリーチュチューター”と澄んだ声でよくさえずる。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日中渡り鳥保護協定指定種。

(関下斉)

スズメ目 ホオジロ科**C**

和名 クロジ

環境省：該当なし

学名 *Emberiza variabilis* Temminck

全長17cm、翼開長26cm、雄は全体が暗青灰色、背に褐色の縦すじ。ホオジロの仲間に共通の尾外側の白色羽がない。分布は狭く、カムチャツカ、サハリン、日本である。本州中部以北で繁殖し、冬期は本州および本州南部で越冬する。県内では夏鳥としてやや標高の高いササの多い林地に少数が生息する。白神山地の秋田県境近くのブナ林には比較的多いが、樹木の多い暗い林地では姿を見ることは少なく、さえずりで生息を知ることが多い。春秋の移動の時期は平地の茂みにもよく出現する。(青森県レッドデータブック2010年改訂版(小山, 2010)を引用)。日露渡り鳥等保護条約指定種。

(関下斉)

ペリカン目 ウ科**D**

和名 ヒメウ

学名 *Phalacrocorax pelagicus pelagicus* Pallas

環境省：絶滅危惧 I B類

冬鳥として少数が渡来し、八戸市深久保にネグラがある（関下, 未発表）。県内では県南の太平洋側の外洋・港湾に少数見られ、陸奥湾ではほとんど確認されず、日本海側では毎年漁港などに少数が出現する。かつて陸奥湾弁天島で繁殖し（清棲, 1978d）、種差海岸では越夏個体が見られることもあるが、現在は県内繁殖地は確認されていない。日米渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定・日露渡り鳥等保護条約の指定種。

（関下斉）**スズメ目 ホオジロ科****D**

和名 シマアオジ

学名 *Emberiza aureola ornata* Shulpin

環境省：絶滅危惧 I A類

国内では夏鳥として北海道内で少数繁殖し、県内では旅鳥として春と秋に観察される。下北半島（三上ら, 1977）や秋田での繁殖記録があることから県内では夏鳥として扱うこともある。渡来地である灌木のある湿原や草地が減少し生息環境は悪化している。国内希少野生動植物種・日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

（関下斉）**スズメ目 ウグイス科****D**

和名 セツカ

学名 *Cisticola juncidis brunniceps* (Temminck et Schlegel)

環境省：該当なし

全長が13cmでスズメより小さい。草原や川原等に生息し昆虫類を採食する。

本種は青森県（1980）によると4月～10月に生息の記録がある。しかし、以後の情報については1990年前後に八戸地域で、1999年に三沢市で確認されているだけで、生息に関する情報が不足している。今後、検討に必要な情報を集める必要がある。（青森県レッドデータブック2010年改訂版（阿部, 2010）を引用）

（関下斉）**スズメ目 アトリ科****D**

和名 イスカ

学名 *Loxia curvirostra japonica* Ridgway

環境省：該当なし

冬鳥として少数渡来するが、県内では周年見られる地域がある。釜沢（1953）など数例の国内繁殖記録があり、2008年1月に八戸市大須賀海岸の松林で抱卵が確認され（関下, 未発表）、下北半島でも松林において継続的に繁殖している（蛭名, 2012）。日露渡り鳥等保護条約・日中渡り鳥保護協定指定種。

（関下斉）

③引用文献

- 阿部誠一 2010. コシジロウミツバメ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドリスト(2010年改訂版) -. p.182.
- 阿部誠一 2010. ケイマフリ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドリスト(2010年改訂版) -. p.186.
- 青森県 2000. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック -. 283pp.
- 青森県 2004. イヌワシ保護対策調査報告書. 67pp.
- 青森県 2006. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドリスト(2006年改訂増補版) -. 113pp.
- 青森県 2010. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. 335pp.
- 蛭名純一 2007. 仏沼鳥類目録. おおせっからんど年報, 3:2-11.
- 蛭名純一・三上かつら 2012. 青森県下北地方におけるイスカ *Loxia curvirostra* の換羽と体色変化. 日本鳥類標識協会誌, 24(2):62-71.
- 遠藤公男 1994. 盛岡藩御狩り日記-江戸時代の野生動物誌. 講談社, 東京. 259pp.
- 樋口孝城・広川淳子・浜田 強 1999. 北海道石狩川下流域におけるチュウヒの繁殖状況. 山階鳥研報, 31:103-107.
- 本州産クマゲラ研究会 2004. 北東北のクマゲラ. 東奥日報社, 青森. 123pp.
- 釜沢忠夫 1953. イスカの営巢. 野鳥, 18(3):30-31.
- 菊地弘保・松原一男 2013. ではったではった. 野鳥をたずねて四十八年. 日本野鳥の会弘前支部. p12.
- 清棲幸保 1978a. アリスイ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京. pp.416-418.
- 清棲幸保 1978b. シマクイナ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京. pp.697-698.
- 清棲幸保 1978c. ジュウイチ. 増補改訂版日本鳥類大図鑑II. 講談社, 東京. pp.482-484.
- 清棲幸保 1978d. ヒメウ. 増補新訂版日本鳥類大図鑑III. 講談社, 東京. pp.949-950.
- 三上正光 1978. シノリガモの繁殖確認. 野鳥, 43:39.
- 三上直樹・杉山優子・扇谷照美・大八木昭 1977. 下北半島でシマアオジが繁殖. 野鳥, 38:49.
- 宮 彰男・三戸貞夫・蛭名純一・関下 斉 2005. 仏沼干拓地で繁殖期に観察されたシマクイナについて. 日本鳥学会誌, 54(2):104-107.
- 向山 満 1978. 巣箱を利用したコノハズク. 野鳥, 38:40-43.
- 成田 徹 1996. 三厩村における珍鳥その1. 青森自然誌研究, 1:42-44.
- 日本鳥学会 2012. 日本鳥類目録(改定第7版). 東京. 438pp.
- 西出 隆 1979. 八郎潟干拓地におけるチュウヒの繁殖記録. 山階鳥研報, 11(2):109-120.
- 小山信行 2009. 2008津軽のオオセッカ. 野鳥をたずねて44年. 日本野鳥の会弘前支部. p.25.
- 小山信行 2010. クマタカ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.183.
- 小山信行 2010. ヘラシギ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.185.
- 小山信行 2010. コノハズク. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.186.
- 小山信行 2010. アカモズ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.187.
- 小山信行 2010. クロサギ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.188.
- 小山信行 2010. ハイタカ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.190.
- 小山信行 2010. オオタカ. 青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010年改訂版) -. p.190.
- 白木彩子 2013. 北海道におけるオジロワシの繁殖の現状と保全上の課題. オホーツクの生態系とその保全(桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之 編著), 北海道大学出版会, 札幌. pp.319-324.
- 高橋雅雄・長瀬京子・三国 孝・久保清子・久保益男・宮 彰男 2017. 青森県仏沼におけるウズラの繁殖. Strix, 33:199-204.
- 高橋雅雄・宮 彰男 2015. 仏沼における2010年から2014年のオオセッカの生息状況. おおせっからんど年報, 4:2-7.
- 高野伸二 1995. フィールドガイド日本の野鳥(増補版). 日本野鳥の会, 東京. 343pp.
- 津軽ダム工事事務所 2008. 津軽ダムのクマタカ. 67pp.
- 吉岡俊朗・蛭名純一・高橋雅雄・宮 彰男・三戸貞夫・関下 斉 2017. 青森県東部におけるオジロワシ *Haliaeetus albicilla* の本州初の繁殖例. 日本鳥学会誌, 66(2):187-190.